

● 次の空欄を文章中の語句で補いなさい。

第一段
初め～p.23.1.10
李徴と袁惨の再会

李徴…⑦ 「才穎だが、性は④」。

↓若くして官吏になる。

賤吏に甘んずるを潔しとせず。

官を退き、⑤ 「を志す。

文名は揚がらず、⑥ 「に堪えかねる。

己の④ 「にも半ば絶望。

⑦ 「の職を奉ずる。

④ 「を傷つけられ、ついに⑥ 「。

異類の身⑦ 「に変身 ↓ かつて親しかった袁惨との再会

第二段
p.23.1.11～p.29.1.16
李徴が虎になるまで (李徴の告白)

◆李徴が袁惨に語る物語 ↑ 叢からの話し声

自分の中の③ 「が姿を消す。

…④ 「 な行い。

⇔ 獣と人間の間を行き来 ↓ 徐々に人間でいる時間が短くなる。

③ 「の心が還る数時間。

…青けなく、恐ろしく、賣ろしハ。

袁惨へ自分の詩の伝録を依頼

袁惨の感想 …才は非凡だが、第一流の作品となるにはどこか欠ける

【李徴の自己分析】

臆病な② 「 詩友に交わらず、世と離れる

⑦ 「 な羞恥心 ↓ 内心同様、② 「 も虎となった

◆ 暁角の音 …夜明け⇨李徴が虎に還る時が近づく

李徴 …妻子の今後を頼む

自らの詩業のほうを気にかけてことを② 「 する。

第三段
p.30.1.1～終わり
李徴と袁惨の別れ

●李徴のさらなる言葉

・ 帰途にこの道を通らないでほしい。

・ 丘から自分の姿を見てもらいたい。

袁惨が叢に向かって別れの言葉を述べる ↓ 叢から④ 「の声

一匹の虎が二声三声咆哮 ↓ 再び姿を見せなかった